

玉野市立玉原小学校

児童生徒数 225名 ・学級数 12学級 ・教職員数 28名（平成26年7月18日現在）

○取組実践のキーワード

- ・基礎的な知識・技能の習得
- ・学習習慣の確立

○標題（研究主題）

学習内容の確実な定着を図る学習活動の工夫 ～授業のユニバーサルデザイン化を通して～

○取組を始めた経緯

本校の学習面での課題を解決していくため、基礎学力の確実な定着が必要と考えたため学校での取組を始めた。また、家庭学習の習慣を付けるために小中連携の活動を通じて、中学校区で統一して家庭学習への取組を実施するようにした。

○取組の実施体制

- ・学校教育活動に関する取組については、全教職員及び地域ボランティアの方々に実施。
- ・家庭学習に関する取組については、家庭と協力・連携しながら実施。

○学力向上に向けた具体的な取組

- ・授業のユニバーサルデザイン化
 1. めあて・まとめを明確にし、分かりやすい授業の実践【焦点化】
 2. 板書の工夫（めあては白囲い・まとめは赤囲いで提示。1時間の流れが分かる板書）【視覚化】
 3. ペア学習やグループ学習を取り入れ、学び合ったり相手に説明したりすることで、理解の定着度の確認とコミュニケーション能力の育成を図る【共有化】
- ・算数科の習熟度別少人数指導

学習内容の理解に時間がかかる児童や、算数に対して苦手意識を持っている児童が多いコースには、地域ボランティアの方々の協力を得て、よりきめ細かい指導ができるようにしている。
- ・スキル学習

水曜日の5校時終了後の15分間をスキル学習の時間として、算数の学習プリントに取り組み、基礎的な学力の定着を図る。番号順にプリントを進め、どのプリントも、正答数が合格ラインに達すれば、次の番号のプリントに進み、合格しなければ、もう一度同じプリントに取り組むことで、それぞれの児童に合った課題に取組、既習事項の定着を図るようにする。
- ・ステップ学習

毎日、朝学習の時間に、全校で統一した方法で漢字の反復練習に取り組み、週末に確認テストを実施することを通じて、既習の漢字の確実な習得を目指す。
- ・全校九九検定

年間6回、九九を学習した学年は、全学年同じ九九の問題（5分間で100問）に取り組み、基礎的な計算が確実にできるようにする。
- ・家庭学習するぞ週間
 1. 中学校のテスト週間に合わせて、年間5回、集中して家庭学習に取り組む期間を設け、家庭学習の習慣の定着を図る。

2. 点検表を活用し、目標時間（低学年・・・30分 中学年・・・45分 高学年・・・60分）が達成できたか、「ながら学習」をしていないか等をチェックし、自己の学習態度を振り返る。

・夏休み算数教室

夏休みの3日間、3年生以上の希望者に対し、算数の宿題やプリントの指導を行うことで、既習事項の定着を図る。

・3年生を対象にした算数教室

金曜日の放課後、隔週で3年生の希望者を対象に算数教室を実施し、既習事項の定着を図る。

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

- ・全国学力・学習状況調査の結果から、算数が好きで、授業が分かりやすいと思っている児童が多く、ここ数年、基礎的な計算問題の正答率が高い傾向が見られる。
- ・スキル学習やステップ学習など、その時間に決まった学習を行うことが当たり前になってきており、少しずつ学習習慣の定着につながっている。
- ・家庭学習する週間の期間は、意識して家庭学習に取り組んでいる児童が多い。

2 課題

- ・算数の習熟度別少人数指導は、学期はじめにコースを決めると、ほぼ固定化してしまう。各單元ごとに習熟の程度に合わせてコースを変えやすいように、レディネステストを行うなどし、より個に応じた指導をすること。
- ・地域ボランティアの方が多く授業の支援をしていただいている。打ち合わせの時間がなかなか取れず、どのように指導や支援していくかを共通理解すること。
- ・学校全体として読解力が低い傾向にあり「じっくり読む力」を育てていくこと。

○取組の継続・発展の要因

本校の実態を考えると、家庭学習の習慣や基本的な学習規律が十分ではないため、基礎的な知識や技能の習得に課題のある児童も多い。学校生活の中で、しっかりと学習に対するアクションを起こし、継続していくことで、少しずつ学習習慣・基礎学力の定着を図る。

○管理職・中核教員等のアクション

「九九検定で結果が伸びた学年の実践」や「家庭学習の時間の集計と傾向」など、具体的な取組について検証し、その対策を立てるなどして積極的に学力向上に取り組む。

○その他の資料・写真等



<全校九九検定>



<算数教室>

